

# 2005年3月期 決算説明資料

2005年5月13日

川崎汽船株式会社

# A. 2004年度決算概要

# A-1. 2004年度決算概要

(単位:億円)

		2004年度	2003年度	前期比 増減額	前期比 増減率	公表数値
売上高	連結	8,284	7,247	1,037	14.3%	8,230
	単体	6,587	5,850	737	12.6%	6,540
営業利益	連結	1,081	705	375	53.2%	1,090
	単体	853	551	302	54.8%	850
経常利益	連結	1,072	626	446	71.4%	1,080
	単体	869	497	372	74.8%	855
当期純利益	連結	599	332	267	80.3%	600
	単体	490	245	245	100.0%	480
配当	単体	16.5円	10円	+6.5円	65%	15円
為替レート	平均	¥107.46	¥113.97	¥6.51高	+5.7%	¥107
バンカー価格	平均	\$191.71	\$170.00	\$21.71高	+12.8%	\$191

経常利益△115億円(為替△65億円、バンカー△50億円)

【為替変動:年間±10億円/1円、バンカー変動:年間±2.3億円/1\$】

参考:単体燃料費実績:738億円(+61億円)、消費トン数369万トン(+14万トン)

## A-2.決算の要点

---

- 3期連続史上最高益更新
- Vision2008最終年度利益目標達成
- 財務体質大幅改善(株主資本充実、有利子負債削減)
- 大幅増収・増益(営業規模拡大、好調な運賃市況・合理化コスト削減 > 円高・燃料高・用船料高)

悪化要因: 為替変動△65億円、バンカー変動△50億円

改善要因: 市況変動+ 365億円、営業規模拡大+125億円、コスト削減他+ 71億円

- 特損: 減損処理前倒し適用(単体47億円、連結70億円)
- 年間配当16.5円、配当性向(単体当期純利益20%)

## A-3.部門別業績動向(コンテナ船)

### コンテナ船:当初見込みを上回る業績達成

(積高:03F通期228万TEU⇒04F通期246万TEU+7.9%増)

- 中国出し貨物を中心に好調に荷動き推移
- 積高増(北米+8%、欧州+6%、アジア+11%、他8%)
- 欧州・北米向け・大西洋航路運賃率修復
- アジア/エーゲ海航路開設、南北アメリカ東岸新サービス開始、東南豪州航路増便、北米東岸航路増設
- 備船マーケット、燃料油価格上昇、円高基調

## A-4. 部門別業績動向（不定期専用船）

### 不定期専用船：前期比大幅改善

- 不定期船：運賃市況活況に推移  
全船型で営業規模大幅増  
(稼動延<sup>ト</sup>141百万<sup>ト</sup>⇒149百万<sup>ト</sup>+5.9%)
- 自動車船：北米向け輸送台数増加(+19%)  
欧州・豪州向け・三国間輸送堅調推移  
傭船マーケット、燃料油価格上昇、円高基調  
  
効率配船による運航コスト削減  
(積高174万台⇒203万台 +17%)

## A-5.部門別業績動向（エネルギー資源輸送）

### エネルギー資源輸送：前期比大幅改善

- 液化ガス運搬船：各プロジェクト共順調に進捗  
（稼動延トン552万トン⇒532万トン △3.6%減）
- 電力炭：新造船投入⇒輸送量大幅増  
市況改善、逆鞘配船解消  
（稼動延トン1447万トン⇒1478万トン+2.1%増）
- 油槽船：タンカー市況安定推移  
（稼動延トン2436万トン⇒2958万トン +21.4%増）

## A-6.部門別業績動向（連結子会社）

---

---

- 内航・フェリー部門：効率配船・輸送量増加により業績安定推移
- 物流・港運：貨物扱い増に支えられ業績安定推移



# B. 2005年度業績予想

# B-1. 2005年度業績予想

(単位:億円)

		第1Q 予想	2005F 上期予想	2005F 通期予想	2004年度 通期実績	通期 増減額	通期 増減率
売上高	連結	2,150	4,500	9,000	8,284	+716	+8.6%
	単体	1,700	3,600	7,100	6,587	+513	+7.8%
営業利益	連結	210	500	1,050	1,081	-31	-2.9%
	単体	140	370	770	853	-83	-9.7%
経常利益	連結	210	500	1,050	1,072	-22	-2.1%
	単体	150	370	780	869	-89	-10.2%
当期純利益	連結	140	340	690	599	+91	+15.2%
	単体	90	230	480	490	-10	-2.0%
配当	単体	-	9円	18円	16.5円	+1.5円	-
為替レート	平均	¥105	¥105	¥105	¥107.46	¥2.46高	2.3%高
バンカー価格	平均	\$250	\$240	\$230	\$191.71	+ \$38.3	20.0%高

経常利益△134億円(為替△30億円、バンカー△104億円)

【連結】為替変動:年間±12.5億円/1円、バンカー変動:年間±2.7億円/1\$

【単体】為替変動:年間±11.5億円/1円、バンカー変動:年間±2.6億円/1\$、消費量420万<sup>10</sup>トン

## B-2.業績予想のポイント

- 売上高：事業規模拡大により前期比連単とも大幅増収
- 連結経常横這い：円高、燃料油高、用船料高等にもかかわらず事業環境の堅調推移により略、横這い。  
単体経常利益悪化：円高、燃料油高、用船料等コスト高  
連結悪化要因：為替変動(2.46円高⇒△30億円)、ハンカ-変動(\$38高⇒△104億円)  
連結改善要因：市況変動・規模拡大+102億円(傭船料△173億円等コスト増△225億円相殺)
- 特損処理前期で完了⇒当期純利益は大幅改善  
連結大幅増益、単体略、横ばい。  
＜連結当期純利益大幅改善要因＞  
特損処理終了、海外子会社改善。
- 年間配当18円、配当性向(単体当期純利益22%)

## B-3. 部門別業績動向

＜コンテナ船＞荷況堅調に推移

マイナス要因：燃料費高値推移、傭船料高騰、港湾混雑

対策：運航費の更なる削減、サービス網の一層の合理化

⇒業績安定推移

＜不定期専用船＞

不定期船：中国を中心とした旺盛な貨物輸送需要により市況は堅調推移

自動車船：世界規模でのマーケット拡大基調に対応した更なる船隊整備と  
三国間トレードにおけるサービス拡充

⇒業績安定推移

＜エネルギー資源輸送＞

LNG：船隊は30隻に拡大。欧米向けに旺盛なLNG船需要見込む

電力炭：安定的需要予想、船隊の増強と整備による業容拡大

油槽船：中国の石油需要伸びにより運賃市況は堅調に推移

⇒業績安定推移

# C-1. キャッシュフロー・投資額ならびに主要財務指標

	2003年度 通期実績	2004年度 通期実績	2005年度 通期見込
営業 C F (減価償却額)	786億円 (256億円)	894億円 (246億円)	780億円 (254億円)
投資 C F	△518億円	△344億円	△700億円
フリー C F	268億円	550億円	80億円
投資額	518億円	344億円	700億円
船舶関連	451億円	547億円	730億円
その他	126億円	189億円	240億円
資産処分(注)	△59億円	△392億円	△270億円
株主資本	1210億円	1813億円	2390億円
有利子負債残高	2818億円	2392億円	2420億円
R O E	32.7%	39.6%	33%
R O A	11.6%	18.4%	16%
株主資本比率	21.6%	30%	35%
D E R 比率	233%	132%	101%

〔2004年度竣工船〕合計8隻

コンテナ船3隻(JOL3)

Chip船1隻(JOL)

電力炭船1隻(JOL)

VLCCタンカー2隻(仕組1、JOL1)

アフラマックスタンカー1隻(関係会社)

〔2005年度竣工船〕合計20隻

コンテナ船5隻(仕組1、JOL2、用船2)

自動車船3隻(用船3)

ケープサイズバルカー5隻(仕組3、用船2)

10万トンバルカー1隻(仕組)

パナマックスバルカー1隻(仕組)

アフラマックスタンカー1隻(関係会社)

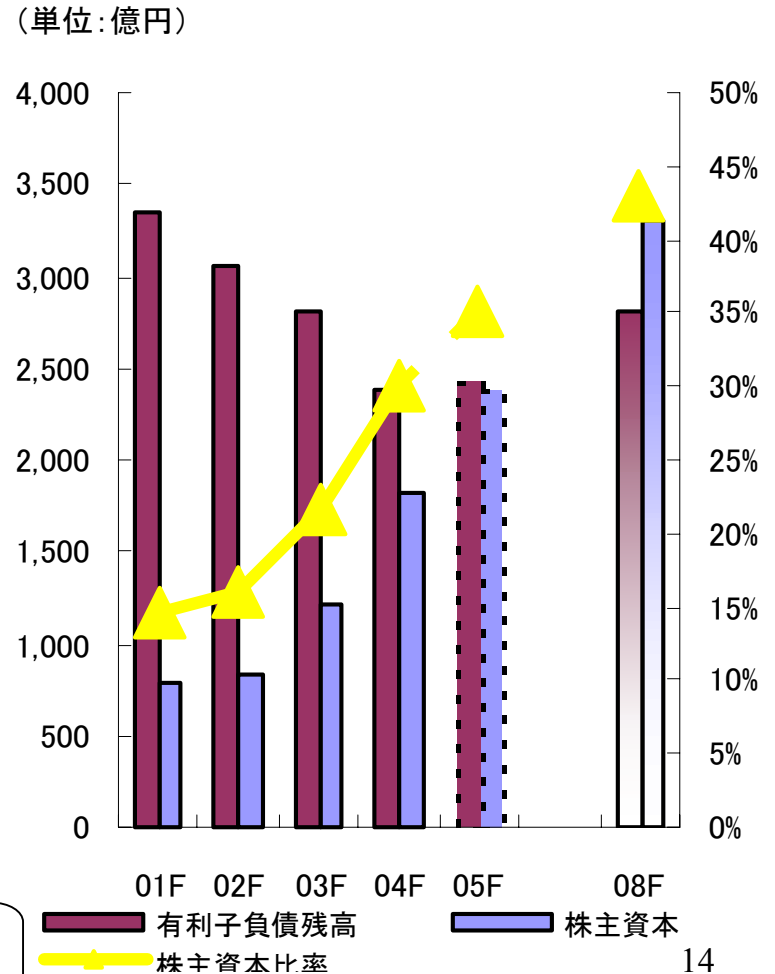
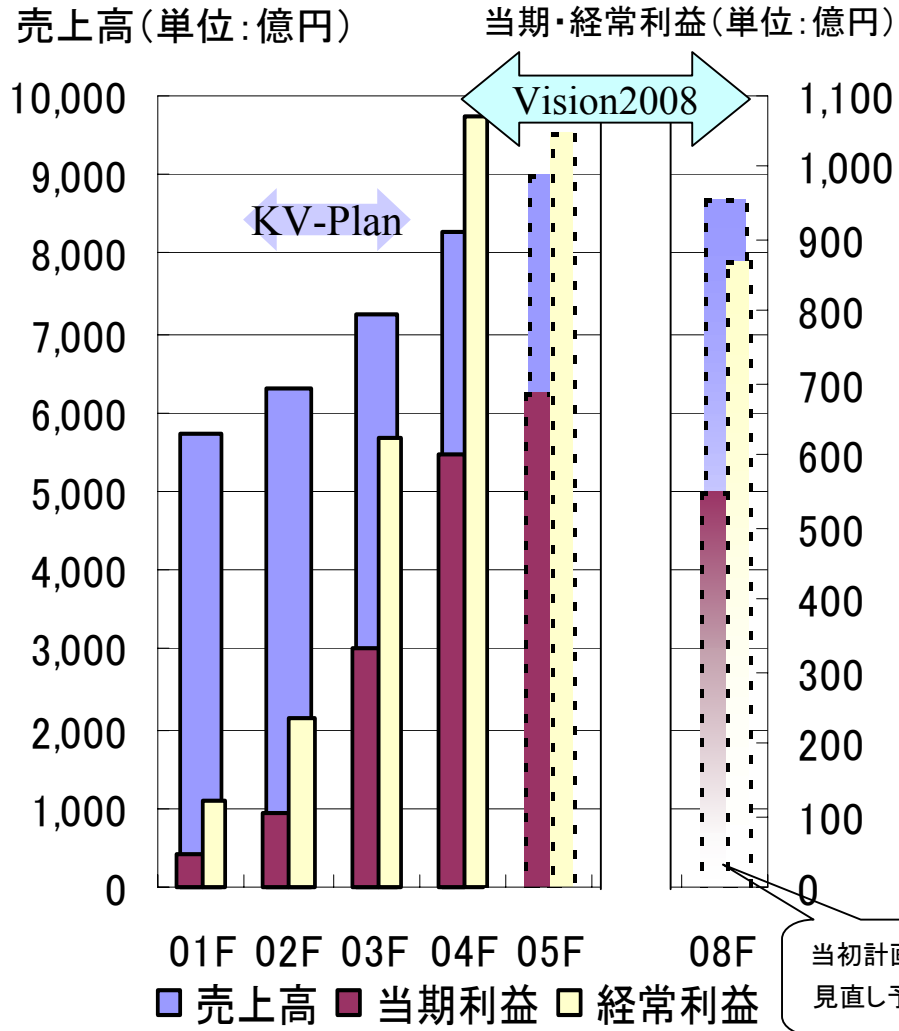
LNG船4隻

(注)資産処分:オペリ船の竣工時売船等ならびに投資の回収額

# C-2. Vision 2008 数值目標推移

## 収益推移

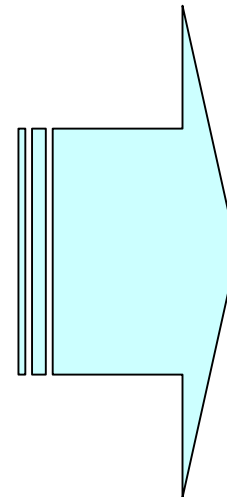
## 主要経営指標推移



# C-3. 船隊規模推移

(単位: 隻数)

部門別	2004年3月期	2005年3月期
コンテナ船	64	73
不定期船	125	135
自動車船	70	78
エネルギー資源(※)	55	59
近海・フェリー	47	45
合計	361	390



08年度当初計画
70
149
85
102
55
461

(※) LNG船の特定目的会社保有船舶を含む。

コンテナ船、不定期船、自動車船は着実に船隊整備進捗、2008年度船隊規模要見直し  
 エネルギー資源輸送は船価高騰もあり、当初計画船隊の見直しありうる

# C-4. コスト削減運動

2005年度目標額:50億円

(単位:億円)

コストセーブ項目	2004年度	2005年度
船費・傭船料削減	9	5
貨物費削減	21	18
サービス改編・合理化効果	11	2
関係会社営業関連費用削減	12	10
一般管理費削減	4	5
機器費・空コン費削減	13	10
合計	70	50
(部門別内訳)		
コンテナ船事業部門(含む海外)	44	30
他事業部門(含む海外)	14	10
関係会社他	12	10



## C-5. “K”Line Vision 2008基本課題の遂行状況①

### 戦略分野・地域への積極的取組み

(コンテナ・物流事業)

- ・8000型コンテナ船4隻追加建造(2008年～2009年竣工予定)
- ・BRICS諸国における代理店・支店網開設
- ・上海に物流会社新設、深センに国際貨運代理会社設立

(鉄鋼原料)

- ・ケープサイズバルカー等、船隊整備進捗

(自動車船)

- ・既存サービス網の増強、安全輸送・危機管理体制の確立

(エネルギー資源)

- ・サハリンエナジー社向け147,000m<sup>3</sup>型新造LNG定期貸船契約締結
- ・カタールラスガスII社向け新造LNG船長期定期傭船契約締結
- ・大阪ガス株式会社向け新造LNG船造船契約締結
- ・ヤラ社向け38,000m<sup>3</sup>型新造アンモニア輸送船長期傭船契約締結
- ・VLCC定期傭船契約締結

## C-5. “K”Line Vision 2008基本課題の遂行状況②

---

---

### コスト構造改革運動の遺伝子としての定着化

- 04年度:コスト削減目標50億円を上回る70億円削減達成(16頁参照)
- 05年度:コスト削減目標50億円

### 財務体質強化と安定配当体制の確立

- 債券格付の引上げ JCR「A-」→「A」、R&I「BBB+」→「A-」
- ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債発行
- 当初10円の安定配当予想に対し、16.5円の配当実施